

千葉県社保協通信

2023年度 No.12 2023年 12月 27日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センター3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール syaho2022@themis.ocn.ne.jp

「一病床移管白紙撤回に一 富山国保病院と地域医療を守る 市民シンポジウムを開催

富山国保病院と地域医療を守る会

12月16日(土)南房総市内のさざなみホール(とみうら元気倶楽部)にて、「富山国保病院と地域医療を守る会」主催による市民シンポジウムが開催され、市民91人が参加しました。

南房総市にある富山国保病院、市町村合併前は富山町立国保病院でした。厚生労働省のいわゆる再編統合「424病院」の対象とされました。南房総市当局は、本年3月市議会で、突然「病院を亀田総合病院が運営する安房地域医療センター「太陽会」に移管(身売り)する」と表明しました。

急遽7月1日に開催された「富山国保病院と地域医療のありかたを考える市民学習会」(講師は公立病院と地域医療を守る千葉県民連絡会;長平弘)には予想を超える140名の市民が参加しました。

その後、病院内には職員労働組合が結成され、自治労連(日本自治体労働組合総連合千葉県本部)と医労連(千葉県医療労働組合連合会)に加盟しました。

8月11日には「富山国保病院と地域医療を守る会」が結成され、会員は150名を超えました。

会は早速、「富山国保病院の存続・充実をもとめる」署名運動に取り組み、現在1万8千名(南房総市全有権者の5割超)を集約しています。



パネラーとして、地元平群地区の山野井区長と、花の谷クリニック(千倉町)伊藤院長が登壇。

「富山国保病院と地域医療を守る会」山口純一事務局長がこれまでの活動経過と今後の取り組みを提案。長平弘氏がコーディネイターを務めました。

あくまでも 存続充実求め あらたな運動を 広げよう !!

こうした全市民的な世論と運動を背景に、12月3日の市民説明会の会場で石井裕市長は「事実上の富山国保病院廃止、太陽会への移管」という方針を、「白紙撤回」として表明せざるを得ないところに追い込まれました。

しかし、今回の市長表明は、あくまでも「富山国保病院の病床移管は白紙に戻す」というもので、今後の人口減少に伴う医業収益の減少による病院運営の困難、老朽化した病院の立て替えによる費用の捻出問題をどうするか含めて「これからの病院の在り方」について継続検討するとしています。

従って、①現行の形態で行くのか、②公設民営してしまうのか、③民間移譲してしまうのか、④近隣自治体病院との統廃合かなど、「病院の今後の在り方」をめぐっては、あらたなスタート台に立っています。

こうした中、12月16日には現時点での到達点を確認しながら、病院の問題だけではなく、南房総市の、そして富山地区の持続可能な将来のまちづくりも視野に入れて、「富山国保病院と地域医療を考えるシンポジウム」が開催されました。

—裏面につづく—